

市民検討会議 提言書

これからの幸手市のまちづくり

～第5次幸手市総合振興計画
後期基本計画策定に向けて～

平成 25 年5月

幸手市市民検討会議

1. 市民検討会議について

市民検討会議は、市民の視点から市の計画・施策に関して検討し、後期基本計画策定に対する意見・提言を行うために設置され、平成 25 年 1 月から 4 月にかけて計 5 回の会議を開催しました。

第 1 回会議では、幸手市の現状についての報告を受けた後、幸手市のまちづくりにとって重要なテーマについて意見交換を行い、第 2 回以降で具体的に内容を検討するテーマを設定しました。

第 2 回から第 4 回会議では、第 1 回で設定した検討テーマに沿って、現状と課題を整理し、課題解決に向けた取組みについて検討しました。

第 5 回会議では、これまでに検討した結果を振り返りながら、「市民検討会議 提言書」をとりまとめました。

■検討経過

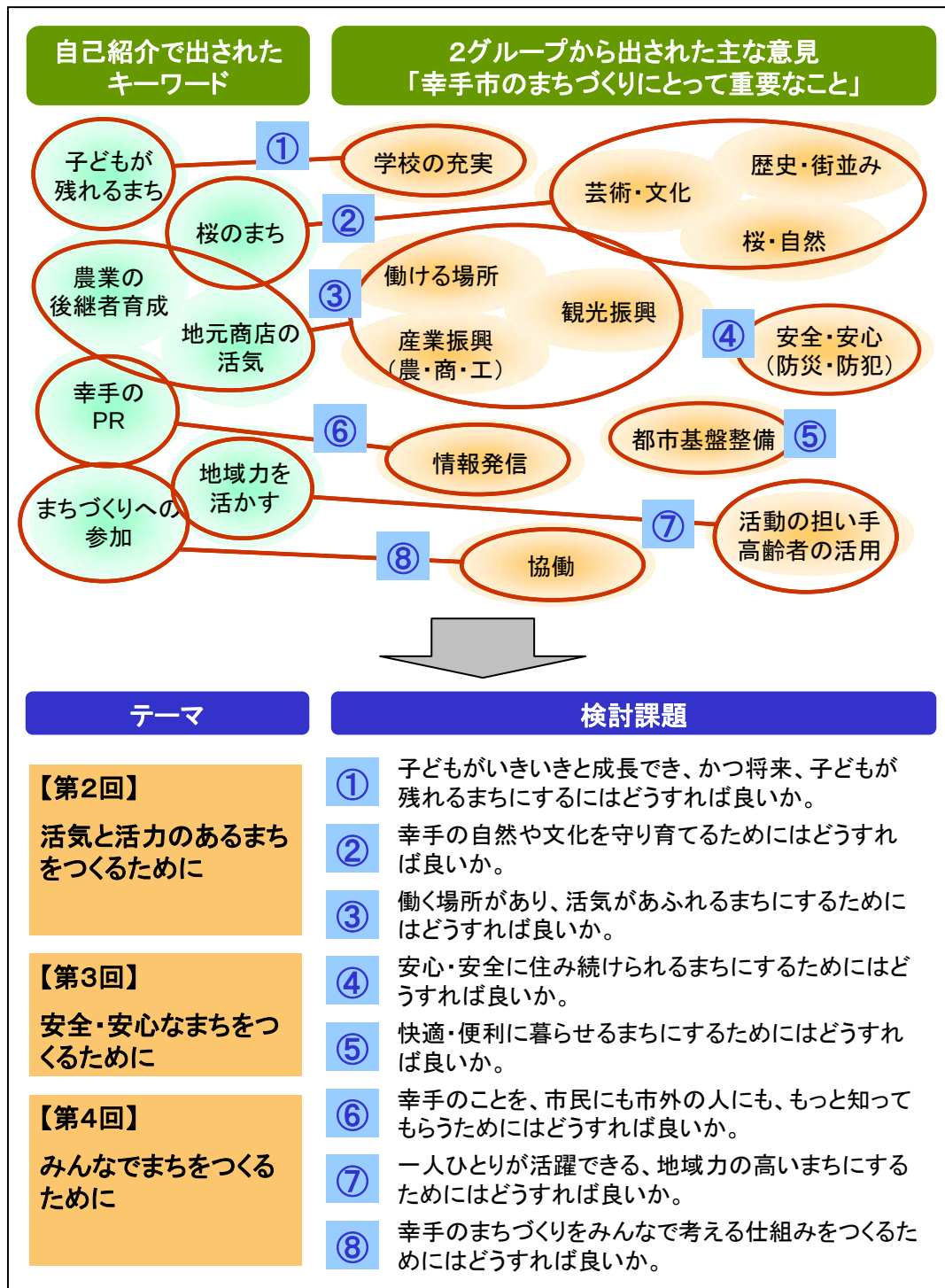
	開催日時	内容
第 1 回	平成 25 年 1 月 20 日（日） 10:00～12:00	・総合振興計画について ・幸手市の現状について（基礎データ及びアンケート結果の報告） ・「幸手市のまちづくりにとって重要なテーマ」についての意見交換
第 2 回	平成 25 年 2 月 3 日（日） 10:00～12:00	テーマ（1）「活気と活力のあるまちをつくるために」 ・テーマに関する情報提供 ・グループワーク①：現状把握 ・グループワーク②：課題解決に向けたアイデア出し
第 3 回	平成 25 年 2 月 27 日（水） 19:00～21:00	テーマ（2）「安全・安心なまちをつくるために」 ・テーマに関する情報提供 ・グループワーク①：現状把握 ・グループワーク②：課題解決に向けたアイデア出し
第 4 回	平成 25 年 3 月 26 日（火） 19:00～21:00	テーマ（3）「みんなでまちをつくるために」 ・テーマに関する情報提供 ・グループワーク①：現状把握 ・グループワーク②：課題解決に向けたアイデア出し
第 5 回	平成 25 年 4 月 24 日（水） 19:00～21:00	・市民検討会議提言書（案）について

2. 幸手市のまちづくりについての市民提案

1) 幸手市のまちづくりにとって重要なテーマ

はじめに、幸手市のまちづくりにとって重要なことについて意見交換を行い、市民検討会議における検討テーマの設定を行いました。

■第1回会議で出されたキーワードと第2回以降の検討テーマの設定



2) まちづくりへの提言

テーマ1：活気と活力のあるまちをつくるために

① 子どもが残れるまち

【現状と課題】

- ・PTAや教育の現場はがんばっているが、学級崩壊等が進んでいる
- ・働きながら子育てができるよう、保育所の充実などが必要である
- ・家庭に対する支援が必要である
- ・子どもの居場所が十分に確保・整備されていない

【取り組みアイデア】

	市民主体	行政主体
地域イメージの向上	・地域に対して、子どもが「良い」イメージや思い出を持てるようにする。	
地域での居場所づくり	・総合型地域スポーツクラブのように、小さい頃から地域のサークルに所属できるような場をつくる。 ・子どもたちの活躍の場をつくる。 ・子どもと高齢者が交流する機会をつくる。	・学童保育のスペースと定員を改善し、相談員の増員等を図る。 ・障がい者が就労できるスペースを確保する。
子育て支援の充実		・3歳未満の子が、雨の日も含めて遊べる場所や遊具を整備する。 ・駅前に託児所を整備する。
子育て世代が住みやすい環境づくり		・駅前の整備により、30～40代をターゲットにしたマンション開発や商業施設の誘致を行う。
学校と地域との連携	・学校の支援員をより活性化する。	・支援員の日当等の予算を確保する。
地域の資源を活用した教育	・高齢者が持つ知識やノウハウを取り入れて、子どもの教育に活用する。	
教育、学校現場への予算確保		・教育・学校等に関する予算を確保する。

② 自然や文化が守り育まれるまち

【現状と課題】

- ・自然や権現堂、行幸湖などがあって良い
- ・桜まつりや市民まつり等があって良い
- ・幸手権現堂桜堤保存会が設立されている
- ・歴史のあるまちだが、強みとして活かしきれていない
- ・自然や文化、歴史を守り育てる市民の動きがある一方で、団体間の連携は不十分である

【取り組みアイデア】

	市民主体	行政主体
幸手宿や権現堂等を活かしたまちづくりの展開	・観光資源（権現堂桜堤）に恵まれているので、駅から回遊できる場所にミニ資料館をつくる。 ・行幸湖付近で花火大会を開催する。 ・高齢者から、賑やかだった頃（幸手宿の頃）の貴重な話を聞くことができるミニ資料館を設置する。	・商工会や市民と協力して、幸手ウォーキングマップをつくる。 ・桜の時期にイベントを行う。 ・幸手宿を活かした景観まちづくりを進める。（地区指定、道路幅員指定や条例づくりなど） ・歴史ある街並みを再現する建物に対する予算措置などを行う。
文化を育てる環境の整備	・音楽ホール改築について要望書をつくる。	
市民主体のまちづくりの醸成	・NPO 等により、地域力を活かした活動を展開する。 ・まちづくりのための条例や計画に積極的に協力する。 ・市民がまちづくりプロジェクトを提案する。	・地域力アップのための支援や NPO 支援を行う。 ・市民が提案するまちづくりプロジェクトを実現するための仕組みをつくる。
「幸手」（しあわせの手）の名前を活かし、「手形」を活用したまちづくりの実施	・幸手市の名物として、市外の一般市民の手形を取り、市内にその手形を飾っておくことで、市外の方が何度も幸手にきてもらえるまちづくりを行う。 ・また、子どもの手形は 20 歳になったら手形を返すような工夫をすることで、子どもが成人になるまでの間に、親子連れで何度か幸手市に来てもらう工夫を行う。	

③ 働く場所があるまち

【現状と課題】

- ・働く場所が限られている
- ・市内にある企業の情報が少ない
- ・努力している個人商店もあるが、魅力ある商店が少なく、古いまちゆえに活性化が難しい
- ・圏央道が開通予定だが、市内の道路は狭く、歩きにくい
- ・各団体の連携が十分でない

【取り組みアイデア】

	市民主体	行政主体
働ける場を増やす	・コミュニティビジネスなどの起業や経営の課題をテーマにして、トークカフェを開催する。	・若い世代や子育て家庭の雇用を促進する。
市内企業のPR	・市内企業見学会を開催する。	・インターネットを活用し、市内企業の紹介等を行う。
農業等の振興	・休耕田、畑を活用した養蜂を行い、蜂蜜を販売する。 ・環境活動、例えば太陽光発電（メガソーラー）の設置をして、その電気を農業などに利用する。	
観光まちづくりの推進	・観光に力を入れる（祭り、花、農業とか）。 ・米作りなどを観光産業につなげる。	
幸手のブランドづくりとティセールの推進	・B 級グルメを開発し、イベントとリンクして活用する。 ・ラジオやCM づくりに積極的に参加する。	・映画やテレビのロケ地としてのPRを行う。 ・市民と協働で、ラジオ局やネットスタジオをつくる。
幸手により来てもらえるようにする		・幸手に来やすくするため、鉄道会社等との連携を行い、イベントを実施する。

テーマ2：安全・安心なまちをつくるために

① 安全・安心に住み続けられるまち

【現状と課題】

- ・地域に顔見知りが多く、つながりがしっかりしている
- ・PTAによる通学路のパトロールや、地域での登下校の見守りなどの仕組みがある
- ・高齢者や障がい者を対象とした見守りネットワークが少しずつ充実している
- ・災害弱者に対するサポート体制が出来ていない
- ・震災時など、災害時のシミュレーションが周知徹底されていない
- ・高齢者の健康づくりや、高齢者のエンパワーメントへの支援が必要である

【取り組みアイデア】

	市民主体	行政主体
地域コミュニティの強化	・転入者を受け入れる意識の改革を行う。 ・若い世代が参加できるプログラムをつくる。	・コミュニティ助成金事業のPRを図りながら、コミュニティ活動を行う。
地域で見守る体制の強化	・地域で交通安全ボランティアを行う。 ・高齢者や保護者による、子ども見守り隊を充実する。 ・声かけ運動などを積極的に行う。	・自治会館掲示板等に、交通安全・防災・防犯情報を適宜出していく。
災害に備えた自主的な活動の推進	・防災組織を自治会や行政区など適正な規模で立ち上げる。 ・災害時を想定した市民主体の防災ワークショップを開催する。 ・大規模災害時に市民がまとまって行動する訓練を行う。 ・災害に関する市民と行政の意見交換会を行う。 ・ハザードマップの研究会を立ち上げる。	・自治会組織の活性化に向けた支援を行う。 ・ハザードマップ等が活用できるよう、具体的な説明を行う。 ・災害時に、帰宅困難者が出たときの対応を迅速に行う体制づくりを構築する。
状況に応じた災害対策の推進	・地域に大きな被害が出る災害と、比較的遠隔地で大きな被害が出る災害とを切り分け、それぞれの対応の手法を明確にすべきである。	

	市民主体	行政主体
市民主体の安全・安心まちづくりの推進	• 自分のことは自分でやる。 • 市民からアイデアを出し、地域力を発揮する。 • 地域のボランティアの組織化を図る。	• 民間（市民）への事業委託を進める。 • 上手くまちづくりを進めている事例を参考にする。

② 快適・便利に暮らせるまち

【現状と課題】

- 近隣の県へのアクセスは良いが、都内へのアクセスが良くない
- 高齢者や子どもが安心して歩ける道路整備が必要である
- 公共施設や病院等に行きやすい公共交通（バス）が必要である

【取り組みアイデア】

	市民主体	行政主体
市内循環バスの見直し	• 公設民営の自由に利用しやすいバスを運行する。	• 時間やコース、車両の大きさなど、市内循環バスの見直しを行う。
車社会からの脱却		• 車がいないまちづくりを進める。
計画的な道路整備の推進		• 生活道路について、狭い道路を長期計画をたてて、計画的に拡げていく必要がある。 • 道路整備の代替地を市内に整備して、円滑に事業が進むようにする。

テーマ3：みんなでまちをつくるために

① 情報発信ができるまち

【現状と課題】

- ・情報発信したい資源（自然、歴史、まつりなど）がたくさんある
- ・市のホームページが行政情報の周知が主体となっていて、かたい印象を受ける
- ・幸手市のイメージが「桜」に偏っている
- ・民間の情報誌が分かりやすい

【取り組みアイデア】

	市民主体	行政主体
市民が求める情報の提供	・民間のホームページなどを活用して、もっと市長を含む、責任ある立場の人が情報提供をする場を設ける。	・市民がまちづくりに気軽に参加できるように、広報を行い、市民活動を促進する。 ・若者が読んでも楽しい広報紙をつくる。 ・市だけでなく、周辺市に関する紹介を広報紙で行う。 ・権現堂公園の情報発信を行う。 ・市のホームページを活用し、年間の協働に関する予定を市民にお知らせ（情報提供）して、参加してもらいやすくする。
市民参加によるラジオ局の設立	・市民がレポーターとして参加する。	・市の情報を発信するためのラジオ局をつくる。
民間を活用した外部への情報発信	・転入者の方に、幸手市によりよいイメージをもってもらうことを目的として、不動産業の方に、幸手市のPRをしてもらう。	

② 一人ひとりが活躍できるまち

【現状と課題】

- 自治会、若妻会、農業後継者の会など、様々な助け合いや話し合いの場がある
- 各町内で、高齢者のサロンや食事づくりなど、コミュニティ活動が行われている
- 高齢者や女性を中心となった活動が多く、働き盛りの男性が活躍できる場所がない
- 活動や団体の参加者が高齢化・固定化されており、新たに参加しにくい
- スポーツや芸術の活動が盛んである

【取り組みアイデア】

	市民主体	行政主体
新たな人材が活躍できる仕組みづくり	• 「幸手を変える会」などを立ち上げて、いろいろな年代や職種の市民を巻き込んだ活動を展開する。 • 転入者がまちづくりに参加できる仕組みをつくる。	
自立的に活動するための体制強化	• 市民が自ら民間のスポンサーを探したり、応援してもらったりする仕組みをつくる。 • 自立的に活動するためのノウハウを蓄積・共有する。 • NPO 等をネットワーク化する。	• 地域課題を解決する取組みを支援する。 • NPO に事業委託する。

③ 協働のまちづくりの仕組みがあるまち

【現状と課題】

- NPO 等への情報提供が不十分である
- 活動している人の高齢化が進んでいる
- 若い人のニーズが分からない
- 市民パワーはあるが、市民の能力を活かせる仕組みがない

【取り組みアイデア】

	市民主体	行政主体
協働の仕組みづくり	• 自分たちのやりたいことを、NPO 等によって実現する。	• 「まちづくり条例」などの制定により、協働の仕組みを制度化する。 • 「まちづくり推進支援担当」を新たに設置する。
まちづくりに関わるアイデアを活かす仕組みづくり	• 市民のまちづくりのアイデアを具現化できる仕組みをつくる。 • まちの良い点等を発見する仕組みづくりに取り組む。 • おみやげコンテスト等、まちづくりにつながるアイデアを競う。	
まちづくりに関わる人材の発掘・育成	• 青少年のまちづくりへの参画の機会をつくる。 • 青少年や子どもを対象としたイベントを開催する。 • 若い世代が参加できる仕組みづくりに取り組む。	• 「まちづくり」市民講座を開催し、受講者がまちづくりに関われるようにする。
市民主体の活動に対する支援の充実		• NPO を設立するまでの手順についてのアドバイスや支援などを行う。 • NPO への参加方法や既存の団体等に関する情報提供を充実させる。
市長や議員との意見交換の場の充実	• 市議会議員と若者を含む市民が意見交換できる機会をつくる。	• タウンミーティングの事前周知を充実させる。 • 市長の意見を明確に出すようにする。
スリムな行政づくり	• 民間・NPO が市と協働できる事業を増やす。	• 行政は人数を減らし、その分を市民や民間に委託する。